

第3章 各教科における具体的取組

1 国語科

(1) 系統表について

ア 指導内容系統表の作成上の留意点

国語科の授業を行う際には、どの段階で、どのような言語に関する知識や技能を身に付けさせるのか、ねらいを明確にし、系統的に基礎的・基本的事項の定着を図らなければならない。また、その知識や技能がより一層定着していくよう「活用」の場面を工夫し、これからの学習や実生活において生きて働く力をはぐくむ工夫が必要である。

そこで、小・中・高の指導内容、育てたい力がどのようなものであるか確認できるように次の内容で系統表（10・11ページ参照）を作成した。

学習指導要領の目標・・・学習指導要領に示された目標を記載した。
指導内容・・・学習指導要領に示された各領域の指導事項を記載した。ただし、指導事項の項目は、小・中・高で異なるため、内容に応じておおまかに揃え、系統が分かりやすくなるよう留意した。
育てたい力・・・国立教育政策研究所の評価規準を基に、「関心・意欲・態度」、「3領域の能力」、「言語についての知識・理解・技能」の三つの観点について、児童生徒の具体的な姿としてまとめた。なお、「3領域の能力」については、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の領域別にまとめた。
活用例・・・学習指導要領に示された言語活用例を記載したが、各学校、児童生徒の実態に即して、創造的に工夫することが必要である。

今回は系統表の一例として「読むこと」の領域のものを示した。なお、高等学校においては、科目により内容が異なるが、教科の内容の基本となるものを全面的に受けている「国語総合」を基にしてまとめた。

なお、指導内容については、系統表を基に、より具体的な指導の重点を明確にすることが必要である。特に「読むこと」の指導内容については、目標や指導内容が文学的文章、説明的文章の両方まとめて示されているため、教材の特色に応じた指導の重点化が大切である。

例えば、説明的文章の指導においては、図5のように各学年、校種において指導の重点を明確にし、前学年までに学習してきたことを生かしなが

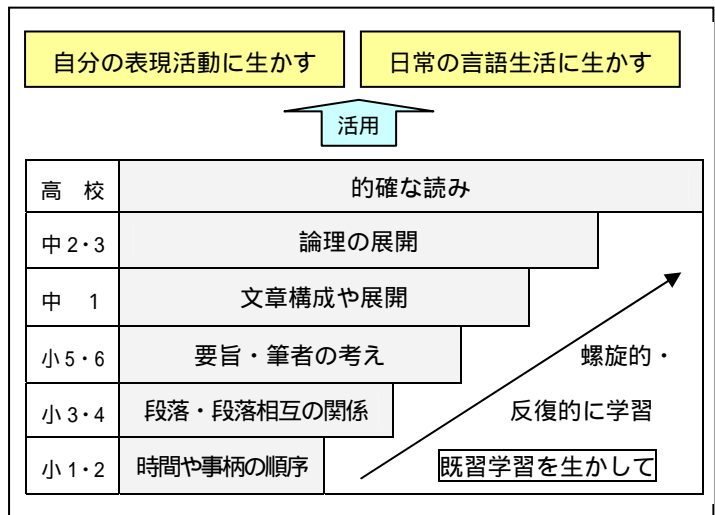


図5 説明文学習における系統的な指導の流れ

ら、学習を積み重ねていき、自分の表現活動や日常の言語生活に活用していくことが大切である。その際、「主語・述語」、「段落」、「要旨」、「要約」などの学習用語を理解、定着させること、説明文の文章構成にいろいろな種類（頭括型、尾括型など）があること及び文末表現の役割などの学習を発達段階に応じて積み重ねていき、それらが次の学習に生きる工夫を行うことが必要である。

イ 指導内容系統表の具体例「読むこと」 *ゴシック体は、P12～14の各実践と関連する指導内容等

		小学校第1学年及び第2学年	小学校第3学年及び第4学年	小学校第5学年及び第6学年
学習指導要領の目標		書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
指導内容	情報読活・読書・活用	語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声に出して読むこと。 易しい読み物に興味を持ち、読むこと。	書かれている内容の中心や場面の様子が分かるように声に出して読むこと。 いろいろな読み物に興味をもち、読むこと。	自分の考えを広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読むこと。 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。
	要約・内容の把握	時間的な順序、事柄の順序等を考えながら内容の大体を読むこと。	目的に応じて内容を大きくまとめたり、必要なところは細かい点に注意しながら文章を読むこと。	目的や意図に応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。
	表現構成の展開		目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むこと。	
	心情や場面	場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと。	場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むこと。	登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。
	考え方の方		読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。	書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと。
育てたい能力	関心・意欲・態度	・読み聞かせや教科書教材の読みをきっかけにして、読む楽しさやおもしろさを味わい、自分が楽しんで読書しようとしている。	・読書の量を増やし、分野を広げて読もうとしている。 ・友達と感想について話し合うことなどを通し、感じ方や考えの違いに気付いて自分の読みを見つめ直そうとしている。	・学校図書館などを利用して、楽しむために読む、調べるために読む、などの様々な目的に応じて読もうとしている。 ・文章の内容を的確に把握したり、論理などを押さえたりしながら読み、自分の考えを表現しようとしている。
	読む能力	・読み聞かせを聞いたり紹介されたりした易しい読み物を楽しんで読んでいる。 ・入門期では、挿絵や写真などを見て想像を膨らませたり、順序を追って読んだりしている。 ・物語の場面が時間的順序によってつながっていることに気づき、内容の大体を読んでいる。 ・あらすじを押さえながら場面を想像豊かに思い描いて読んでいる。 ・説明されている事柄と叙述を結び付けて想像しながら読んでいる。 ・場面の様子について読み取ったことを理由を述べながら話し合い、想像豊かに読んでいる。 ・はっきりした発音で文章を読んでいる。 ・意味内容が明瞭になるように、ひとまとまりの語や文として読んでいる。 ・言葉の繰り返しやリズムなどを楽しみながら声に出して読んでいる。	・自分の読書経験を生かし、読んだ内容に関連した物語や詩、説明文など読書の範囲を広げて読んでいる。 ・段落の要点を抜き出したり、小見出しを付けたりなどして、段落相互の関係や文章の中心をとらえて読んでいる。 ・叙述に即して、場面と場面とのつながりや文脈における意味を読み取ったり、情景を想像したりしながら読んでいる。 ・読み取った内容について自分なりに感想や意見などをまとめている。 ・友達との交流において叙述を基に考えを深め合っている。 ・自分と他の人との感想や意見の違いに気付いている。 ・疑問に思ったことに基づいて調べたりまとめたりするとき、大切なところの細部に注意して細かく読んでいる。 ・文章の区切り目や大事な言葉を明瞭に声に出して読んでいる。 ・内容の中心や場面の様子が相手にもよく伝わるように声に出して読んでいる。	・自分の課題を解決するために、必要な図書の種類を考えたり、図書の利用の仕方を考えたりしながら、図書資料を読んでいる。 ・文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりしたことを、読書発表会に生かしている。 ・文章構成や文末表現などを手がかりとして筆者の主張を読み取っている。 ・目的によって短い文に要約したり、説明するためにある程度長くまとめたりにしている。 ・登場人物について心情や性格、考え方などを多面的にとらえて人物像をまとめている。 ・情景描写などの表現に着目して読み味わっている。 ・筆者の意見や感想をとらえ、自分の立場からそれらの意見についてどのように考えるか意識して読んでいる。 ・必要な本を十進分類法で探したり、目的に応じて、速読や比べ読みなどを適宜用いたりしている。
	言語についての知識・理解・技能	・絵本や簡単な物語を読むときなど、平仮名や片仮名を正しく、はっきりした発音で読んでいる。 ・当該学年までに配当された漢字を読んでいる。 ・文章を読むとき、これまでに学習した漢字を読み、文脈の中での意味をとらえている。 ・ひとまとまりの文として読むとき、主語と述語との関係を意識して読んでいる。 ・読み物教材において、敬体で書かれた文章などの文体を意識している。	・当該学年までに配当された漢字を読んでいる。 ・地名や人名などの固有名詞を含めた日常目にする程度の簡単なローマ字を読んでいる。 ・様子を表す語句や主語になる語句などに注意し、語句が性質や役割の上で類別があることを理解している。 ・国語辞典や漢字辞典の使い方を知り、難語句や新出漢字など必要に応じて活用している。 ・文章全体における段落の役割を理解している。 ・指示語や接続語の役割を理解し、文と文との意味のつながりを考えている。	・当該学年までに配当されている漢字を読んでいる。 ・表音文字と表意文字の違いなど仮名及び漢字の由来、特質などについて理解している。 ・語句に関する類別や構成、変化、由来などについて自ら調べている。 ・重要語句などを調べるために辞書を使って調べる習慣が付いている。 ・俳句や短歌などを自ら音読し、言葉のリズムや響きなどを感じ取っている。 ・はじめ・中・おわりといった展開の仕方を理解している。 ・意見と事実との書き分け方、順序に沿った述べ方など、文章の形態によって構成の仕方が変わっていくことを理解している。
活用例(言語活動)	・昔話や童話などの読み聞かせを聞くこと。 ・絵や写真などを見て想像を膨らませながら読むこと。 ・自分の読みたい本を探して読むこと。	・読んだ内容などに関連した他の文章を読むこと。 ・疑問に思ったことなどについて関係のある図書資料を探して読むこと。	・読書発表会を行うこと。 ・自分の課題を解決するために図鑑や事典などを活用して必要な情報を読むこと。	

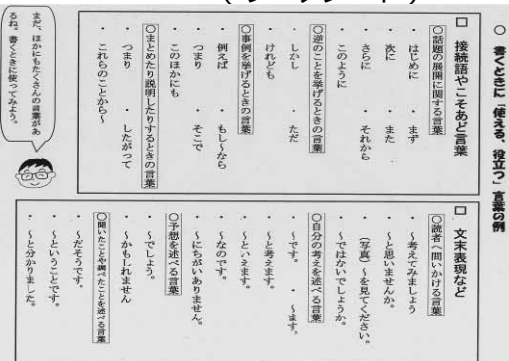
	中学校第1学年	中学校第2学年及び第3学年	高等学校	
学習指導要領の目標	様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。	目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。	
指導内容	活用・音読・情報読	目的をもって様々な文章を読み、必要な情報を集めて自分の表現に役立てること。	* 国語総合では、領域ごとの目標は示されていないので、参考までに「現代文」の目標を示した。	
	要約の把握	文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること。 文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。 文章の展開を確かめながら主題を考えたり要旨をとらえたりすること。	文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりすること。	
	表現・展開	文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。	文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色をとらえたりすること。	
	場面・心情		文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。	
	考え方の方	文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げること。	文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと。	様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりすること。
育てたい力	態度・関心・意欲	必要な情報を集めるために、学校図書館等を積極的に活用するなどして、目的や意図に応じて様々な種類の文章を詳しく読み比較しようとしている。	古典や近代以降の様々な文章を読んで、表現の意図や特色をとらえようとしたり、心情を豊かにし、思考力を育て、人間、社会、自然などに対して自分なりの考えをもとうとしたりしている。	
	読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 当該語句の一般的な意味を踏まえて、文脈の中で具体的、個別的な意味をとらえている。 文章を読んで、書き手の考えの進め方や説明、説得の仕方など論述の過程に注意して内容を理解している。 主題を考えたり、要旨を支える論理の道筋を明らかにしたりして内容を理解している。 文章を読み、段落ごとの内容や段落相互の関係を正確にとらえて内容を理解している。 文章の叙述に即して主題について豊かに考えたり、目的に応じて段落相互の関係や論の展開をおさえて要旨を正確に理解したりしている。 文章の記述に即して書き手のものの見方や考え方をとらえるとともに、自分のものの見方や考え方を広げている。 様々な文章を比較して読んだり、調べるために読んだりするとき、例えば、書物の表題や目次を読んで必要としている情報などがあるかどうか判断して読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句の辞書的な意味と文脈状の意味とに注意し、語句の的確で効果的な使い方について理解して、自分の言葉の使い方に役立てている。 文章を読み、書き手の個性的な説明の仕方や説得の方法などをとらえ、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」に役立てている。 音読や朗読などを通して、構成や展開、説明や描写、比喩など文章の叙述の仕方に注意しながら読んでいる。 文章を読んで書き手の思考や心情に迫り、人間、社会、自然などに対する自分の意見がもてるようになる。 あることごとくについてもっと深く知るためや、文章やスピーチなどの形で発表するために材料を集めている。 集めた情報を取捨選択したり、加工したり、引用箇所や挿入部分を検討したりするなどして自分の表現に役立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文脈を考えながら、語句や表現に注意して、書き手の考えなどをとらえている。 文章の要点を押さえながら、書き手が述べようとしていることを簡潔にまとめている。 文章の組立を確かめたり、段落相互の関係を読み取ったりしながら、書き手の主張や文章の内容をとらえている。 文体や表現技法等の特徴に注意しながら、書き手の主張や文章の内容をとらえている。 古典や近代以降の様々な文章に描かれている人物の心情や情景をとらえ、音読や朗読などを取り入れながら読み味わっている。 様々な文章を読むことで、書き手の主張や文章の内容をとらえ、共感、疑問、思索などを通して思考力を高め、自分なりの考えを深めている。 学校図書館等を利用することを通して、読解力を高めるとともに、必要な情報を収集、選択し、その価値などを読み取り活用している。
	言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読むとき、事象や行為を表す語彙を理解している。 文章を読むとき、段落を構成する各文の役割、接続関係、構造などを考えている。 文章を読むとき、指示語や接続詞の働きやこれらと同じような働きをする語句に注意している。 文章を読むとき、多様な読者を想定して書かれている書き言葉の特色や役割に気を付けている。 小学校学年別漢字配当表に示された漢字に加え、その他の常用漢字のうち250字程度から300字程度までの漢字を読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読や朗読を通して、語感を磨いている。 文章を読むとき、抽象的な概念などを表す語彙などを豊かにしている。 様々な文章を比較して読むとき、表現様式や文章の展開、文の成分の順序などを考えている。 文章を読むとき、関係を表す助詞や判断などを表す助動詞などの活用や働きに注意している。 文章を読むとき、会話などにおける共通語や方言、敬語の適切な使い分け方に気を付けて読んでいる。 第2学年では、第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読み、第3学年では第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 語句について、その意味や文脈の中での使われ方を理解している。 単語、複合語や連語、慣用句などについて理解している。 常用漢字について、その音訓を理解し、文脈に応じた適切な読み方を身に付けている。 現代語と異なる歴史的仮名遣いや活用の違い、主な助詞、助動詞等の意味、用法、係り結び、敬語法の大体について理解している。 漢文の訓読に必要な返り点、送り仮名、句読点などに関するきまりについて理解している。 国語の歴史的な成り立ちと変遷について理解している。
活用例(言語活動)	<ul style="list-style-type: none"> 様々な文章を比較して読んだり、調べるために読んだりすること。 目的や必要に応じて音読や朗読すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章に表れたものの見方や考え方などを読み取り、それらについて話し合うこと。 考えを広げるため、様々な古典や現代の文章を読み比べること。 課題に応じて必要な情報を読み取り、まとめて発表すること。 		

(2) 指導内容の確実な定着と活用を図る学習指導の工夫

以下に、「読むこと」の学習を生かして「書くこと」につなげた実践を紹介する。

ア 小学校の実践例

- 1 教材名「みんなで生きる町」(「光村図書」6年下)
- 2 本時の目標(11/13)
構成表を基に自分の考えを効果的に伝える提案文を書くことができる。
- 3 指導に当たって(活用の工夫について)
前時までに、自分の考えを効果的に伝えるための文章の構成を理解し、教科書のテキストを参考にしながら構成表を作成している。本時は、構成表を基に非連続型テキストの活用を含めて自分の考えが効果的に伝わるような提案文を書かせる。
- 4 本時の展開

過程	主な学習活動	時間	教師の働きかけ・支援・評価(工夫した点)
つかむ・みとおす	<ol style="list-style-type: none"> 1 漢字小テストをする。 ・ ガイド係の説明にしたがって漢字を書く。 ・ 答え合わせをする。 2 本時の学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 構成表をもとにして、自分の考えが相手によく伝わるように提案文を書こう。 </div>	10	各自、小テストに取り組み、ガイドを中心に自分たちで答え合わせまでできるようにする。 ガイド係の指示で板書をワークシートに書かせる。書き終わった児童は、教科書を音読させる。
しらべる・ふかめる	<ol style="list-style-type: none"> 3 モデルの文章を読み、構成表をもとにした文章の書き方について理解する。 4 構成表をもとに提案文を書く。(ワークシート)  <p style="text-align: center;">【語彙カード】</p>	20	構成表とモデルの提案文を示し、構成表から提案文が完成するまでの流れをつかませる。 文章を書くときに必要な接続語やこそあど言葉、パターン別の文末表現をまとめた語いカードを配布し、必要に応じて提案文に取り入れるようにさせる。なお、こそあど言葉について理解が不十分な児童がいるので、3年生教科書下巻「こそあど言葉」を用いて想起させる。 提案文に添える写真や図については、4年生の教材「アップとルーズで伝える」の学習内容を振り返らせ、写真などを使うことの良さや効果等について復習させる。
ふりかえり	<ol style="list-style-type: none"> 5 提案文を読み返し、自己評価する。 6 提案文を発表する。 7 本時の学習を振り返り、次時の学習に見通しをもつ。 	15	評価項目に沿って、自己評価させる。 提案文を発表させ、自分が特に工夫した点などについても述べさせる。

5 成果と課題

成果

- ・ 育てたい力を整理することによって、既習事項を生かしたり、中学校1年生の内容を見通したりするなど、児童の実態に応じた系統性を生かした指導ができた。
- ・ 諸調査を分析することによって、指導の重点化が図られた。また、「活用力」を育てる指導はどうあるべきかを考えながら、国語科授業を計画することができた。

課題


- ・ 新学習指導要領の内容について理解を深め、具体化を図る。中学校と更に連携を図り、それぞれの校種で育てたい力を明確にするとともに、個々の児童の実態について適切な引継をする必要がある。

イ 中学校の実践例

- 1 教材名 「メディア・リテラシー」(「三省堂」1年)
- 2 指導目標(4/5)
 - (1) 「メディア・リテラシー」本文や資料から情報を集め、工夫して編集することができる。
 - (2) 情報を発信する活動を通してメディア・リテラシーへの理解を深めることができる。
- 3 指導に当たって(活用の工夫について)

本授業で身に付けさせたい言語活動スキルを次のとおり設定し、指導する。

 - ・ 教科書本文や他資料から適切な情報を集める。
 - ・ 出典を明らかにして資料を適切に引用する。
 - ・ ふさわしい文章の形態を選択し、適切な構成を工夫する。
- 4 本時の展開

過程	学習活動	時間	指導・支援の留意点(工夫した点)	資料等
導入	1 本時の学習目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 小学校6年生向けに「新聞の見方」というパンフレットをつくらう。 </div> 2 パンフレットを書くときの注意点を確認する。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標は教師が2回読み、その間にノートに書く。全員で書いたものを読む。 ・ 相手意識、文体、参考資料、引用、文章構成等について確認する。 	
展開	3 新聞の比べ読みを行い、その違いと効果を考える。  <p style="text-align: center;">【新聞の比べ読み】</p> 4 教科書本文を読み、文章構成の工夫を読み取る。 5 パンフレットを作成する。	35	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言いたいことを効果的に伝えるためにどのような事実をどこに配置しているか確認する。 <p>同じ記事について書かれた新聞記事を比べ読みさせ、筆者の主張の妥当性を理解させる。 説明的文章を読むことの系統を踏まえ、文章の構成や展開について指導を重点化し、文や新聞などの構成例を示し、学習モデルとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市のパンフレット等、実物も見せる。 	辞書 ワークシート パンフレット例
終末	6 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の始めに書いた小作文を振り返らせ、学習の成果を確認させる。 ・ 実際に小学生に感想を書いてもらうことを伝えておく。 	小作文

5 成果と課題

成果

- ・ 説明的文章の「読むこと」の系統を基に、指導事項を文章の構成や展開に重点化したことで、教材文の文章や構成を参考にして、書くことにつなげることができた。
- ・ 「紹介文を書く」という言語活動では、相手意識をもって文章を書くことができた。

課題

- ・ 本時まで、教科書本文から読み取ったことを基に書くという視点を明確に与えるべきであった。ノートを参考に書く等の助言一つで変わったかもしれない。

ウ 高等学校の実践例

- 1 教材「生命倫理が変わる」(「新編現代文」大修館書店・3年)
- 2 本時の目標(6/8)
 - (1) 筆者の主張をとらえ、自分の意見を書くことができる。
 - (2) 自分の考えをまとめ、本文の内容を深く理解することができる。
- 3 指導に当たって(活用の工夫について)

- ・ 筆者の主張に対する自分の考えを，既習の形式を用いて構成させるようにする。
- ・ 内容や論の展開の仕方を理解し，自分の考えを表現することを通して，総合的な学習の時間や自分の進路実現に生かせることに気付かせる。

4 本時の展開

過程	学 習 活 動	時間・形態	指導上の留意点（工夫した点）	資料等
導入	1 学習課題と進め方を確認する。 学習課題 「筆者の考えを確認し，自分の考えを書こう。」	3分 一斉	・ 本時の学習課題と進め方を提示する。 小学校における「はじめ・なか・おわり」，中学校における「序論・本論・結論」の文章構成を想起させ，それぞれのまとまりの役割を考えながら文章を構成させる。	学習のてびき
展開	2 筆者の主張をとらえる。	5分 一斉	・ 筆者の主張を確認させる。	ワークシート
	3 序論を書く。		・ 問題提起の段落となるよう注意させる。	
	4 筆者の主張に対する自分の考えを明らかにして本論（前半）を作成する。	7分 個	・ 本論（前半）を書かせる。自分の考えをはっきりさせる。 ・ 本論の後半部分に，具体例を用いて理由を書かせる。また，本文中から根拠となる部分を探し出させ書かせる。	相互評価表
	5 自分の意見を支える理由・根拠を明らかにし，本論（後半）を書く。	20分 個		
6 お互いのワークシートを読み合い，評価する。	5分 ペア	・ 各自のワークシートを交換させ，コメントを書かせる。 ・ まとめ部分であることを意識させ，結論を書かせる。	相互評価表	
7 結論を作成する。	5分 個	総合的な学習（進路学習）に生かせることに気付かせる。		
終末	8 本時のまとめをする。	5分 個	・ 本時の学習を振り返らせる。 ・ 次時の予告をする。	学習のてびき

5 成果と課題

成果

- ・ 教材文の論理構成を読み取り，理解したことを活用して書き進めることで，生徒が論理性に注意しながら書くことができた。
- ・ 「読むこと」，「書くこと」の系統性を踏まえることで，指導事項の重点化が図れた。

課題

- ・ 生徒が書いた文章を相互評価する時間を十分に確保する必要がある。

(3) 成果と課題

小・中・高を通じた成果と課題は次のとおりである。

ア 成果

系統性を踏まえることで，学習の振り返りがなされ，それを基に，指導事項の重点化，明確化がなされた。

学習したことを活用する言語活動の場を設けることで，意欲的に学習に取り組む児童生徒の姿が見られた。

イ 課題

系統性を踏まえた学習活動を展開するには，単元の指導計画を作成する段階で，学年内，学年間，校種間の指導事項の系統を授業でどのように生かしていくか具体化する必要がある。

「書くこと」の言語活動を通して，身に付いた読みの力がどのように活用されるのか更に明確にする必要がある。